

# 泉大津市制70周年記念庭園について

福原成雄

## はじめに

2011年末、大阪造園土木社長から大阪市内有吉邸主屋建替えのため、作庭家重森三玲の文化財的価値を有する庭園が取り壊されるので、庭園移築保存が出来ないかと問合せがあった。

その時は金額、場所、時間的に大変難しいとお返事したが、神谷昇泉大津市長に依頼されていた「歴史文化を継承し育むこと」を目的とした泉大津市政70周年記念モニュメントに、最も相応しいのではと、早速、神谷昇市長にご相談したところ快諾をいただき、泉大津市制70周年記念事業庭園として整備が決定した。

作庭当初の姿の北側「吉泉庭園」は、旧有吉邸庭園(重森三玲作庭)として泉大津市に寄贈、移築保存整備を行い、南側「有心庭」は、二度作り替えが行われていたので、石材だけを寄贈していただき、新たに「悠泉庭」として作庭を行った。

庭園移築保存整備設計、施工監理は筆者が行い、移築工事は、有吉家出入の泉大津市指名業者大阪造園土木が行った。重森三玲作庭庭園移築保存整備の経緯と移築方法について報告する。

泉大津市は大阪府南部に位置し、北部、東部は高石市、和泉市、南部は木津川を境に泉北郡忠岡町と隣接している。

西北部は大阪湾に面し、はるかに淡路島から六甲山を望む事が出来る

面積は13.36km<sup>2</sup>で、人口77,229である。

(図-1 参照)

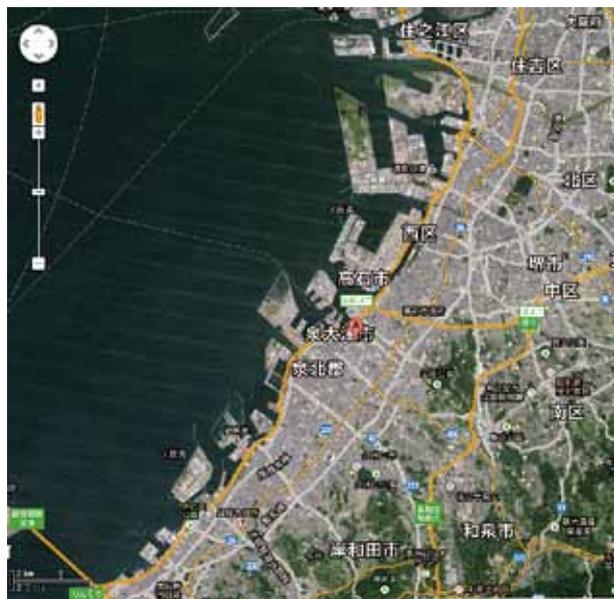


図-1 泉大津市位置図

## 1. 庭園の現況

重森三玲作庭の庭園が、どのような庭園なのか、移築に相応しいかの調査を2011年12月23日に行った。庭園は、洋間リビングに東面した北庭「吉泉庭」面積約37坪(122m<sup>2</sup>)、和室広間に南面した南庭「有心庭」面積25坪(83m<sup>2</sup>)の二カ所であった。有吉邸庭園は、重森三玲著書「庭」1964年、平凡社刊、中田勝康著書「重森三玲 庭園の全貌」2009年、学芸出版社刊で紹介されており、施工者野口信一他によって昭和39年(1964年)2月29日に着手され、同年5月5日完成している。重森三玲68歳であった。

「吉泉庭」は、作庭当初の姿で維持管理が行われており、北東角から西、南に向かって築山を連続させ、一段高い北東角に滝を感じさせる豪快な重森三玲独特の青石による大胆な傾きの立て石組が目線を引きつけている。要所要所に三尊石的な小降りので立て石組、枯れ流れには舟石が蓬莱山を目指して進んでいる姿が空間を引き締めていた。山の景色、出島、川の景色を作り上げている。東西に向かってタマリユウ(作庭当初はコケ)で縁取られた優美な護岸の曲線美と白川砂の枯れ流れ、そして建物際の犬走りから広がりを持たせた部分は、目地を朱にした青小板石敷に飛石が打たれている。建物と調和のとれた文化財的価値を有する個人住宅庭園であった。「有心庭」は、大石が主張しすぎて狭さを感じ、見た瞬間に建物と庭園との調和がとれていないと感じた。庭全体を雲海に見立て、丹波赤石、御影石敷き、地被の中に岩山がそびえていた。

「庭」で紹介されている写真と見比べ、弟子によって二度作り替えが行われたことが分かった。大振りの景石もその時に持込まれ雰囲気を一変する様な庭園が作られた。

(写真-1.2.3.4.5.6参照)(図-2 参照)



写真-2 「吉泉庭」現況写真



写真-3 「有心庭」現況写真



写真-1 「吉泉庭」現況写真



写真-4 「有心庭」現況写真



図-2 重森三玲作成の庭園設計図



図-3 公園位置図



写真-5「吉泉庭」



写真-6「有心庭」作庭当時の写真



写真-7 東雲公園

## 2. 移築場所の決定

移築場所の候補地として、多くの市民が乗降する南海電車泉大津市駅駅前ロータリー広場、公園利用が活発な市役所前東雲公園、史跡池上曾根遺跡の北隣、池上曾根弥生学習館敷地内の三カ所が候補に上げられ、移築場所を泉大津

市役所前の東雲公園に決定した。

東雲公園内には既に1983年、元大阪府立園芸高等学校教員であった故吉田徳治が施工指導を行った滝、流れによる回遊式日本庭園が市役所北側に作られており、憩いの場所として市民に広く活用され、庭園を移築、新たな庭を整備することでさらに魅力あふれる庭園ゾーンとなることが期待できる泉大津市制70周年記念庭園に最も相応しい場所であった。

東雲公園は昭和59年(1984)に近隣公園として設置された面積1.3haの泉大津市を代表する公園である。

(写真-7.8.9参照)(図-3 参照)



写真-8 移設場所



写真-9 「吉泉庭」移設場所

### 3. 記念庭園の内容

記念事業の目的としては、次の3つが上げられ、

「泉大津市の歴史文化を継承し育む」

「環境都市を目指した緑の環境整備」

「誰もが住みたいと思うまち・社会づくり」

市制70周年記念庭園は「世界平和と人々の幸せを願い」

「歴史文化を継承し育む」を目的とした。

「吉泉庭」は重森三玲が有吉邸庭園として命名し、ここ泉大津市に移築されることを予見していたような名称で、宝の山を目指して宝船が大河を登って行く姿で、誠に目出度い山と川を表した枯山水庭園で、東雲公園既存庭園流れ際の樹林地に移築した。

東雲公園既存庭園流れ対岸に、当初からの築山、景石、植栽樹木を活かし、有吉邸庭園「有心庭」の景石を使用して、新たに「悠泉庭」を作庭した。

「悠泉庭」の作庭場所は、泉大津市役所に接した東雲公園を訪れた時、お年寄りから幼児まで、大変多くの人々に愛され、利用されていることを感じた。そこで、泉が悠々と変わるこ



図-4 庭園配置図

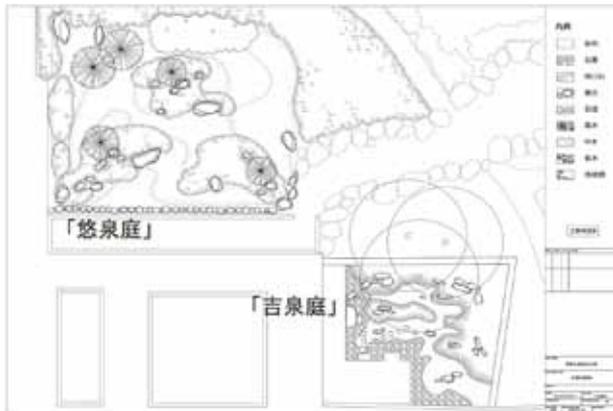


図-5 「悠泉庭」「吉泉庭」移設平面図



図-6 「悠泉庭」平面図



図-7 「悠泉庭」スケッチ図

となく湧き出て来るようなイメージと、ただ眺めるだけの庭では無く、子供達が入り込み遊べる雄大な山々を表した枯山水庭園として作庭した。

日本庭園は、その時代の歴史文化を表し、多くの人々が憩い楽しむことが出来る世界に誇る庭園文化である。

(図-4.5.6.7 参照)

#### 4. 記念庭園工事の内容

##### 1) 調査、工事、開演式の日程

2011年12月23日 庭園現況調査

庭園の測量は、平板測量、トランシット測量、レベル測量、写真測量を行い、建物と庭園の配置、石材の配石図、高さ、石張り、砂利敷きの形態等克明に実測を行った。(図-8参照)

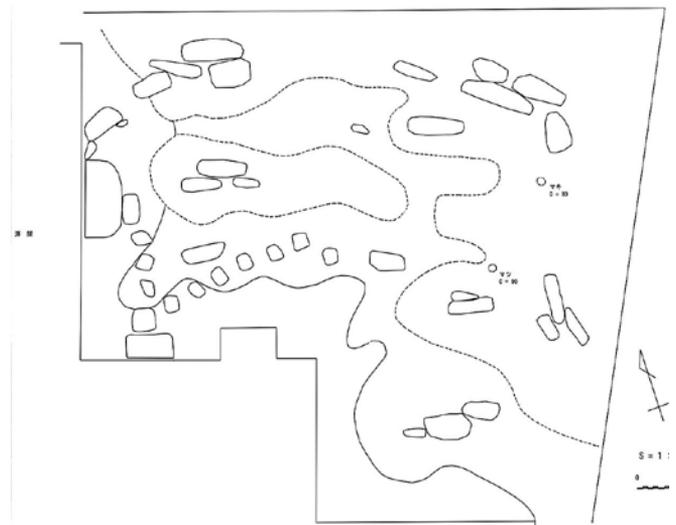


図-8 「吉泉庭」現況測量図

##### 2) 2012年3月19日 庭園打合せ、現況の石材寸法確認

東雲公園内の既存石材の実測を行った。

##### 3) 2012年5月9、14日 悠泉庭石組工事

南庭で使用されていた石材を使用して、新たな枯山水の石組を行った。(写真-10.11 参照)



写真-10 石材搬入



写真-13 「悠泉庭」搬入石材



写真-11 石材搬入



写真-14 「悠泉庭」石組工事

4) 2012年5月21日、22日 悠泉庭石組工事  
南庭で使用されていた石材を使用して、新たな枯山水の石組を行った。(写真-12.13.14.15.16.17参照)



写真-12 「悠泉庭」石材搬入



写真-15 「悠泉庭」石組工事



写真-16 「悠泉庭」石組工事



写真-19 「吉泉庭」石組工事



写真-17 「悠泉庭」完成



写真-20 「吉泉庭」石組工事

5) 2012年5月28日 吉泉庭石組工事  
北庭「吉泉庭」の実測図面を基に忠実に再現した。  
(写真-18.19.20参照)

6) 2012年6月5日、8日 園名石設置工事、砂紋工事、  
竹垣工事等(写真-21.22参照)



写真-18 「吉泉庭」石組工事



写真-21 「吉泉庭」砂紋工事



写真-22 「吉泉庭」完成

7) 2012年6月9日(土)泉大津市政70周年記念庭園開園式  
開園式は、記念式典、記念コンサート・演奏会、記念茶会が行われ、記念式典は関係者挨拶、除幕式、記念品贈呈が授与された。

(1) 泉大津市政70周年記念庭園開園式スピーチ全文

ただいまご紹介していただきました大阪芸術大学の福原です。「吉泉庭」「悠泉庭」が誕生した経緯についてご紹介させていただきます。

誕生の始まりは、昨年、大学の先輩で、泉大津市在住の建築家野崎様のご紹介で神谷昇市長とお会いし「街づくりと公園」と言うテーマでお話をさせていただき、その時に、市政70周年記念の施設を依頼されたことに始まります。昨年末に、大阪造園土木坂口社長から作庭家重森三玲氏の庭園移設保存が出来ないかと問合せがあり、最初は移設金額、場所、時間的に大変難しいとお返事をしましたが、神谷市長のお顔が目に浮かび、依頼されていた「歴史文化を継承し育むことを目的」とした市政70周年記念に、最も相応しいのではと、早速、神谷市長にご相談したところご快諾をいただき、今日ここに実現することができました。

「吉泉庭」は重森三玲氏が有吉邸庭園として命名した名称で、ここ泉大津市に移築されることを予見していたような名前で、誠に目出度い山と川を表した枯山水庭園で、宝の山を目指して宝船が川を登って行く姿を表しています。対岸には、

当初からの地形、石材に、有吉邸庭園「有心庭」の石材を使用して、新たに「悠泉庭」を作庭しました。「悠泉庭」は、東雲公園を訪れた時に、お年寄りから幼児まで、非常に多くの人々に愛され、利用されていると感じました。そこで、泉が悠々と変わることなく湧き出て来るようなイメージと、ただ眺めるだけの庭では無く、子供達が入り込み遊べる雄大な山々を表した枯山水庭園として作庭しました。日本庭園は、その時代の歴史文化を表し、多くの人々が憩い楽しむことが出来る世界に誇る庭園文化です。泉大津市政70周年記念庭園として世界に誇る庭園が生まれたことに喜びを感じ、東雲公園の緑と調和して世界中の人々が訪れる場所となること、市民の方々に何時までも愛されることを願います。

最後になりましたが、庭園は、決して一人で作れるものではなく、チームワークによって作られています。

神谷昇市長、有吉様、建築家野崎様、大阪造園土木の職人の方々、市役所の関係者の方々のご努力で出来上がりました。心からお礼申し上げます。

(2) 記念石の除幕

記念関には下記の内容が刻まれた。

吉泉庭 重森三玲氏 作 造園家 有吉義之氏より寄贈(移築)

悠泉庭 福原成雄氏 作 大阪芸術大学教授

泉大津市市政70周年記念事業

歴史文化を継承し育むことを目的に日本庭園を設置

泉大津市市長 神谷昇

2012年6月吉日

(3) 記念コンサート、演奏会、記念茶会

記念コンサートは、「愛、平和、水、自然」をテーマに滋賀県、ハワイで活動をされているシンガーソングライターの蜂谷清香(はちやきよか)さんによって、「なんてすてきな世界なんだろう」「いくつものいのち」「ぼくの友達」の3曲を熱唱していただいた。

続いて大阪芸術大学演奏学科管弦打研究室メンバー、トランペット片山晃、森山直樹、ホルン松下あや香、トロンボー



写真-23 開園式



写真-25 開園式



写真-24 開園式



写真-26 子供のための庭園

ン岸部雅史、テューバ木脇冬馬による「金管五重奏」で、「となりのトトロメドレー」「WATER MUJIC」「アメリカ」「SEA SKETCHERS」演奏していただいた。さらに茶華道連合会の協力で東陽中学校、小津中学校の茶道部生徒によって野点が行われた。

(写真-23.24.25.26参照)

## 5. おわりに

神谷昇泉大津市長、有吉様、建築家野崎様、大阪造園土木の職人の方々、泉大津市役所の関係者の方々のご努力

で、泉大津市政70周年記念庭園として文化財的価値を有する重森三玲作庭の庭園を東雲公園の緑と調和して移築保存整備出来たことに喜びを感じている。

市民の方々に何時までも愛され、10年後、20年後と年月を重ねる毎に輝きを増し、世界中の人々が訪れる場所になることを願っている。

2013年4月7日、英国日本庭園協会の一行が重森三玲作庭の庭園移築状況を見学するために訪問された。

(写真—27参照)

庭園は、決して一人で作られるものではなく、チームワークによって作られ、維持管理は、利用する人々の心で生まれ、庭園の意義、文化財的価値を理解して行われる必要がある。

日本中の取壊されようとする地域の文化財的価値を有する日本庭園等をいかにして保存することが出来るのか検討が急務である。



写真-27 英国日本庭園協会「悠泉庭」「吉泉庭」訪問

#### 参考文献

「庭」重森三玲著 1964年、平凡社

「重森三玲 庭園の全貌」中田勝康著 2009年、学芸出版社